

看護学部卒業式・大学院看護学研究科学学位授与式

2025年3月18日（火）に2024年度看護学部卒業式・大学院看護学研究科学学位授与式を開催し、学部生97名、大学院生21名が卒業・修了の日を迎えました。

会場には、保護者の皆様をはじめ、実習でお世話になった医療機関の関係者の方々や、地域の教育ボランティアの皆様がご参列くださり、あたたかい雰囲気の中卒業生・修了生の旅立ちを祝いました。



合格おめでとうございます

～2024年度国家試験合格率～

看護師 100%

保健師 100%

助産師 100%

学長挨拶

学長 江川 幸二

今年の2月に中央教育審議会から「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」と題する答申が出されました。これは急速に進展する少子化や世界情勢の変化を見据えて、今後、大学が目指すべき姿を示したものです。さまざまな提言が含まれていますが、その中でも特に本学が取り組んでいく必要があると考えている内容は、「学修者本位の教育の更なる推進」であり、卒業時における学修成果の可視化の促進です。要するに本学卒業時の到達目標を明確にし、その目標に向けて各学年の学生自身が今どの位置にいるのかわかるようにし、最終的に看護基礎教育で学ぶべき知識や技術、態度をしっかりと身につけることができるようにすることです。それによって学生は自身の課題を明確化でき、その課題を達成することによって満足感が得られ、充実した学生生活を送ることができるようになります。このように学生目線での教育の質保証を目指して、教職員一同、尽力していききたいと思います。



「ちいき」で暮らすー誰もが安心して暮らせる地域共生社会をめざしてー

社会福祉学分野 岩本 華子 准教授

2025年2月27日開催の「教育・実習ボランティア講習会」では、皆さんの生活圏域としての「地域」(ちいき)をテーマに社会福祉学の立場からお話させていただきました。社会福祉分野では「ちいき」について、①制度・政策、②社会福祉の実践、③住民の皆さんが生活する場、という3つの視点から見ることができます。①制度・政策の側面から見ると、地域福祉への注目は1980年代から始まります。80年代から福祉行政の地方分権化、90年代の社会福祉基礎構造改革等を経て、こんにち、何らかの状態にある「特定」の方のみが対象とされるのではなく、「ちいき」で暮らす誰もが必要な支援を受けながら暮らせる「地域包括ケアシステム」の構築が目指されています。②社会福祉の実践の側面から見ると、神戸では、実践者が定住し、住民とともに「ちいき」を変えていく日本版のセツルメント活動を実践した賀川豊彦の活動を挙げるすることができます。③生活する場という側面から見ると、社会福祉研究者の一番ケ瀬康子による「日常生活要求」(基礎的生活要求、社会的生活要求、文化的生活要求)を満たす場として「ちいき」を捉えることができます。3つの視点はどれも、さまざまな年齢や立場の住民が「ちいき」で安全に安心して暮らせることに通じており、社会福祉は「ちいき」全体や一人ひとりの福祉の向上を目指しています。



新任教員紹介

ウィメンズヘルス看護学分野 宮下 ルリ子 教授

4月より、ウィメンズヘルス看護・助産学分野に着任いたしました。8年ぶりに広島から神戸に戻ってまいりました。といっても、出身は渋谷栄一さん(1万円札)と同じ埼玉県深谷市です。また、いちかんで皆さんと一緒に看護・助産を学ぶことがとても楽しみです。私は、劇団四季の鑑賞と猫が大好きで、メス猫を2匹飼っています。猫も新しい環境に慣れるために日々奮闘しています。全ての女性を通して、全ての人の心身の健康支援に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

言語科学分野 西本 希呼 准教授

主な専門は、フィールド言語学とエスノマセマティックス。5歳の頃に「ことば」に疑問を抱き、阪神淡路大震災被災を機に国際社会に何ができるかを探求し続けてきました。マダガスカル、東南アジア、オセアニアの島嶼国、南米等の主に文字のない社会で学術調査研究を行ってきました。本学では学生の皆さんの潜在能力と可能性を伸ばし、変動する時代に臨機応変かつ柔軟に対応できる、心の器の広い人材育成に微力ながら尽力していきたい所存です。

看護管理学分野 中川 典子 准教授

こんにちは、今年4月に基盤看護学領域看護管理学分野に着任しました中川典子です。これまで、京都市の高度急性期病院の看護部副部長として働いていました。産婦人科、小児科、脳外科・眼科、管理部門、専門学校、研修センターなど様々な看護の現場での経験を活かし、看護師や看護管理者が笑顔でやりがいをもって働くことができるような環境づくりのお手伝いができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



新任教員紹介

ウィメンズヘルス看護学分野 平田 恭子 准教授

強くて、でも脆くて——それでもまた、強くたくましくなっていく。そんな螺旋を描くようなプロセスを経て、女性は母となっていく。この過程に寄り添える看護職の仕事は、非常にやりがいのあるものであると助産師としての経験から確信しています。研究では、視覚に障がいのある妊産婦というマイノリティに焦点を当てています。マイノリティのケアを、学生のうちから考え始めることは、看護職としての視野を広げ、実践力を高める大切な礎になるはずです。ともに学び合いましょう。

基礎看護学分野 玉田 雅美 特任講師

私は、本学の1期生として卒業後、看護師として病院に勤務していましたが、大学院への進学を機に教員になりました。本学では、主に1・2年生の基礎看護技術の授業を担当しています。学生の皆さんが、看護について考え、患者にとってよりよい援助とは何かを考え、日々成長していく姿を楽しみに授業しています。これからも、よろしくお願いいたします。

公衆衛生看護学分野 藤本 佳子 講師

公衆衛生看護学分野に着任しました藤本佳子です。昨年度から、いちかんダイバーシティ看護開発センターにて、兵庫県内の保健師を対象とした現任教育に従事しています。

今年度からは、未来の地域保健や医療を担う学生の皆さんと共に学べることを嬉しく思っています。

実践と教育をつなぐ視点を大切に、学びの場を充実させてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

基盤看護学分野 古閑 美知子 助教

4月より基盤看護学領域基礎看護学分野に着任いたしました、古閑美知子です。本学短期大学部を卒業後、臨床看護師としての経験を経て、これまで看護教員として教育に携わってまいりました。学生と日々関わる中で、看護教育の奥深さやその魅力を実感しています。今後もこれまでの経験を活かし、学生と共に学びながら、実践力と看護の心を育む教育に力を注いでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

公衆衛生看護学分野 東田 仁美 助教

今年度より公衆衛生看護学に着任しました。これまで地域包括支援センター、行政、暮らしの保健室、訪問看護など地域をフィールドとして勤務して参りました。保健師は仕事を通じて地域で暮らす人々の生活に寄り添い、様々な年齢層や背景を持つ人々の人生経験や価値観に触れ、人との関わりを通じて成長できると思います。これから学生の皆様と共に学びを深めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

公衆衛生看護学分野 矢野 美咲 助教

今年度より公衆衛生看護学分野に着任いたしました。私は、行政保健師として市町村保健センターや地域包括支援センターでの勤務経験があり、地域には様々な価値観や生活スタイルの方が生活しておられることを日々実感してきました。本学での授業や実習をとおして、学生の皆さんと一緒に、対象者がその人らしく地域で生活できるような支援を考え、学びを深めることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。



新任教員紹介

公衆衛生看護学分野 宮階 ひとみ 特任助教

公衆衛生看護学分野の特任助教として着任いたしました宮階ひとみと申します。保健師として勤務していた頃は、実習指導者として学生と関わってまいりました。現在は教員として、学生の成長に寄り添えることに喜びを感じています。学びを深めた学生の表情はとても輝いており、私自身も刺激を受けています。今後も学生とともに学び、実践力のある専門職の育成に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

小児看護学分野 岩浪 睦 助教

4月より小児看護学分野の助教として着任いたしました。これまで、総合病院や子ども病院で、看護師として勤務をしてきました。本学では、学生の皆さんと共に子どもたちの健やかな成長発達を支える看護について深く学び、考えていきたいと思っています。学生の皆さんの学びを全力でサポートし、一緒に小児看護の魅力と奥深さを探求していけることを心より楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

老年看護学分野 小川 あい 助手

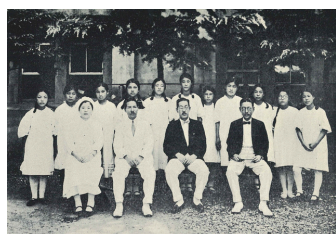
今年度より健康生活看護学領域老年看護学分野の助手に着任いたしました。私は本学の卒業生であり、母校で働けることを嬉しく思っています。臨床では、急性期病院、特別養護老人ホームに勤務しておりました。学生の皆さんと、高齢者の力や強みに着目しながら、最期までその人らしく生を全うできるよう支える看護について一緒に学び、考えていければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

創基100周年・開学30周年

2026年、神戸市看護大学は創基100周年・開学30周年を迎えます。1926年4月に市立神戸診療所に看護婦養成所として創立してから100年、1996年4月に神戸市看護大学として開学してから30年となります。この間、阪神・淡路大震災や新型コロナウイルス感染症をはじめとした危機を経験しながら、地域の保健医療の向上に寄与してきました。これからも本学の教育・研究・地域貢献活動を広く社会に発するとともに、皆様の誇りとなる大学を目指して、歩みを進めていきます。

現在、学内において理事長をはじめとする内部理事、教職員、学生などを中心に、記念事業の開催に向けた会議や準備を進めています。具体的な記念事業の内容として、記念式典を2026年10月に開催し、本学出身者で看護分野において活躍している卒業生や、看護分野以外で活躍している卒業生の登壇を計画しています。また、本学の歴史、取り組みをまとめた記念誌の発行を予定しています。記念事業に関する情報は、特設サイトに随時発信していく予定ですので、是非ご覧ください。

また、創基100周年・開学30周年に向けた寄附を募集しております。教育研究環境の整備、地域課題解決・地域社会との連携事業、周年記念事業に活用させていただきます。皆様からの温かいご支援をお待ちしております。



1926年創立
市立神戸診療所附属看護婦養成所



周年記念ロゴ



周年記念特設サイト